

## 中筋川ダム・横瀬川ダムが効果を発揮

～令和4年台風14号におけるダムの治水効果について～

- 令和4年9月16日夜からの降雨は、中筋川ダム上流域では累計359mm<sup>※1</sup>、横瀬川ダム上流域では累計293mm<sup>※2</sup>を観測しました。

※1:9月16日22時～19日19時（時間最大約52mm・18日13時）

※2:9月17日 2時～19日19時（時間最大約27mm・18日13時）

- この降雨により、中筋川は下流の磯ノ川地点で、ピーク水位 6.09m を記録し、氾濫注意水位（5.50m）を超える出水となりました。
- 中筋川ダムでは最大流入量の約81%、横瀬川ダムでは最大流入量の約68%をそれぞれのダムで貯留しました。
- ダムが無かった場合には、磯ノ川地点で実績の最高水位より約0.8m水位が高かったものと推定されます。
- また、中筋川ダム、横瀬川ダムは台風14号に備え事前放流を実施し、2ダムで洪水貯留容量に加え約116万m<sup>3</sup><sup>※3</sup>の容量を利水容量から確保しました。

※3:事前放流により確保した容量は洪水貯留準備水位及び平常時最高貯水位から最大確保できた容量

※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

※本発表は、四国圏広域地方計画広域プロジェクト【No.1 南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への「支国」防災力向上プロジェクト】に該当します。

令和4年9月28日

国土交通省 四国地方整備局

渡川ダム統合管理事務所

### 問い合わせ先

- ◆中筋川ダム・横瀬川ダムに関する問い合わせ

国土交通省 四国地方整備局 渡川ダム統合管理事務所

電話（0880）66-2501

所長 福島 奨 内線（201）

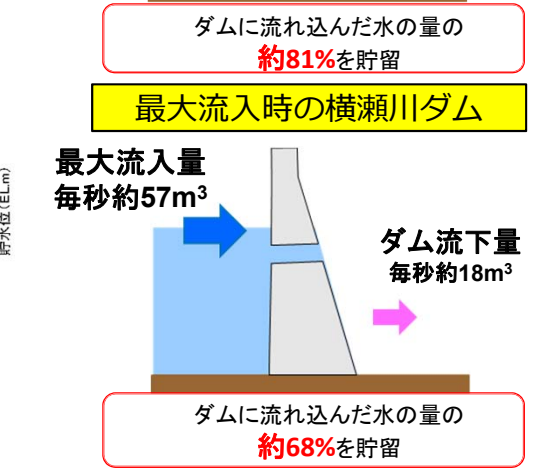
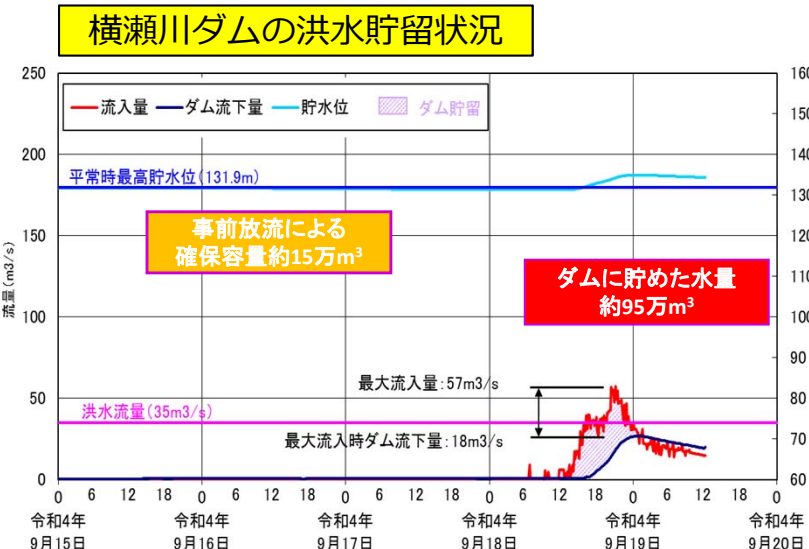
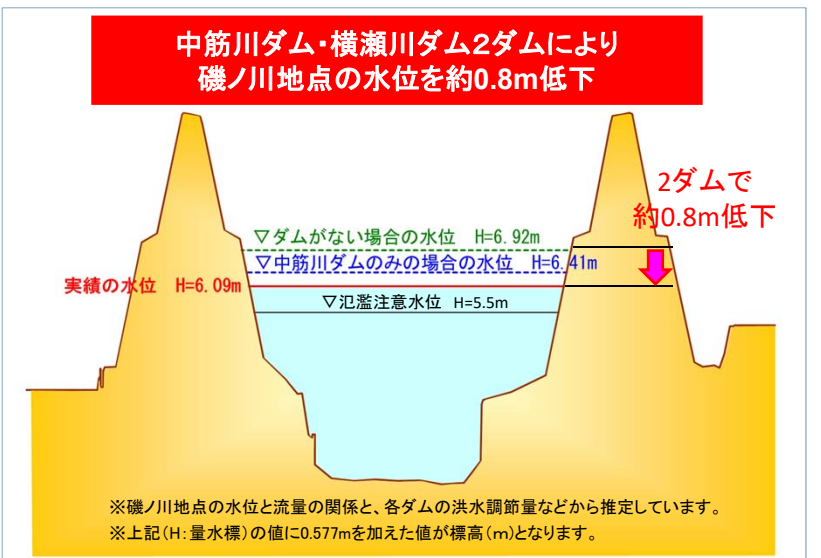
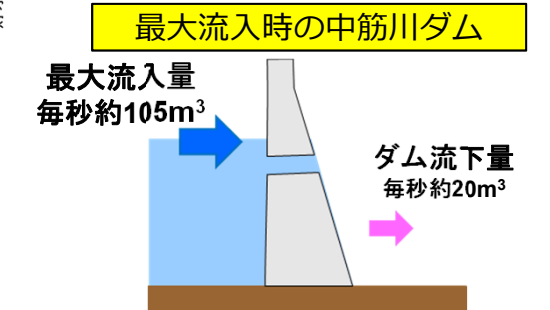
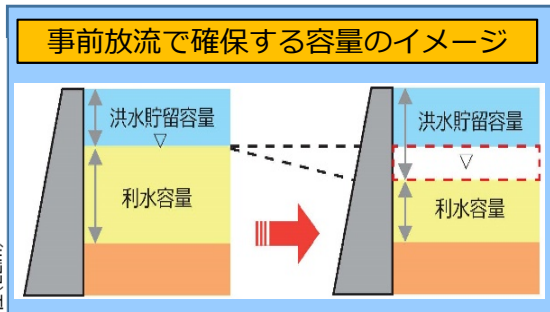
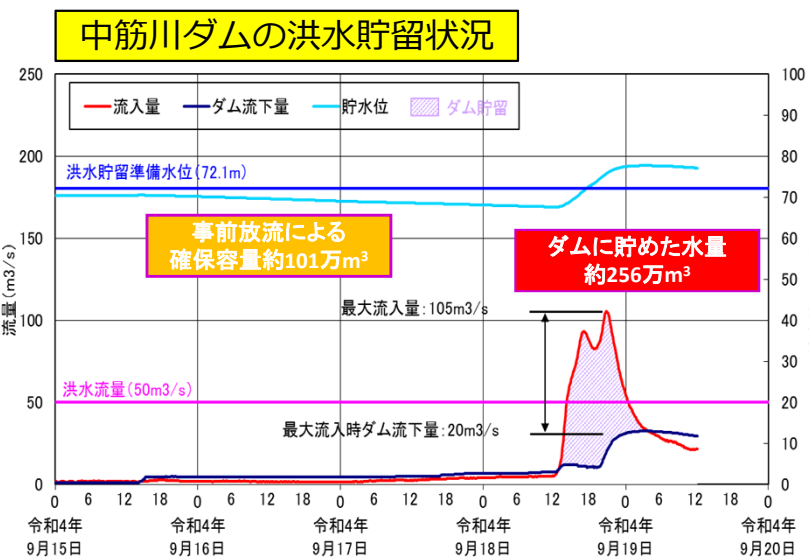
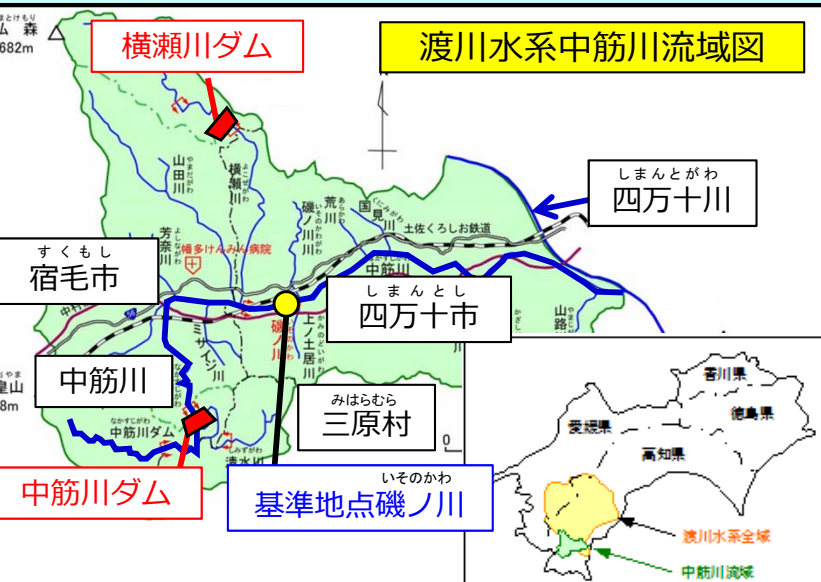
◎管理課長 渡辺 雄二 内線（331）

◎主な問い合わせ先

# 中筋川ダムと横瀬川ダムの効果(高知県・渡川水系中筋川)

- 令和4年9月16日からの降雨は、中筋川ダム上流域で累計359mm<sup>※1</sup>、横瀬川ダム上流域で累計293mm<sup>※2</sup>の降雨を観測。
- 中筋川ダムでは最大流入量の約81%をダムで貯留し、横瀬川ダムでは最大流入量の約68%をダムで貯留。
- ダムがない場合は、磯ノ川地点で約0.8m水位が上昇していたものと推定。
- また、台風14号に備え事前放流を実施し、2ダムで洪水貯留容量に加え、事前に約116万m<sup>3</sup><sup>※3</sup>の容量を利水容量から確保。

※1:9月16日22時~19日19時(時間最大約52mm・18日13時)、※2:9月17日2時~19日19時(時間最大約27mm・18日13時)  
 ※3:事前放流により確保した容量は洪水貯留準備水位及び平常時最高貯水位から最大確保できた容量



※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

# ダムの貯留状況

中筋川ダム



貯留前(事前放流完了) EL=67.59m (9月18日12時10分)



今回洪水による貯留量  
約256万m<sup>3</sup>

貯留後 最高貯水位EL=77.69m (9月19日3時20分)

横瀬川ダム



貯留前(事前放流中) EL=131.67m (9月16日9時00分)



今回洪水による貯留量  
約95万m<sup>3</sup>

貯留後 最高貯水位EL=134.97m (9月19日0時40分)